

調べてみよう！ 小野道風

ぼくのはみんな知っているよね？
平安時代に活やくした小野道風をモデルにしているんだよ！
小野道風はどんな人だったのか、どんな活やくをしたのか、
くわしく調べてみよう！



「書のまち春日井」マスコットキャラクター 道風くん © Kasugai City 2008

名前

小野道風 (八九四〜九六六)

小野道風は、約千百年前、平安時代中ごろに生きた人です。当時、日本でいちばん字が上手でした。

道風は、十二歳のとき初めて醍醐天皇にお会いし、そのう

で認められました。

大人になった道風は、

七十三歳で亡くなるま

で天皇に仕え、天皇の

手紙を清書したり、天

皇が使う屏風に漢詩を

書いたりして活やくし

ました。



▲ 小野道風肖像画(観音寺蔵)

道風の業績

道風の業績を一言でいえば、新しく「和様の書」をつくりあげたことです。

道風が生まれる前、平安時代の初めごろまでの日本は、遣



これは平安時代末期につくられた「源氏物語絵巻」だよ。

美しいひらがなで書かれている点に注目してね。

当時の貴族の生活を知ることができるよ！

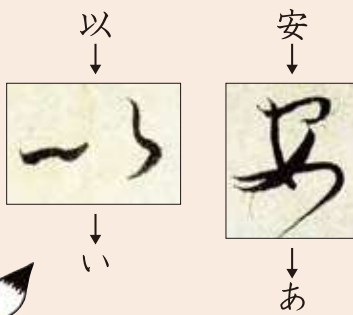


▲ 源氏物語絵巻 (柏木三 詞一・二) 徳川美術館所蔵 (国宝) ©徳川美術館イメージアーカイブ/DNPartcom

ひらがなのでき方

日本にはもともと文字がなく、中国から伝わった漢字を使っていましたが、漢字だけで日本語を書き表すのは不便です。

そこで、漢字の画（かく）を続けたり（しょうりやく）、略したりして、ひらがながつくられました。ひらがなができたことで日本語を自由に書き表すことができるようになり、『源氏物語』や『古今和歌集』などの文学（ぶんがく）が盛ん（さか）になりました。



唐使（たうし）を送るなどして中国の文化を学んできました。しかし、平安時代の中ごろになると、中国の文化をまねするだけではあき足りなくなり、新しい日本独自の文化（ぶんか）を築（きず）こうと人々の意識（いしき）が変わりました。漢詩（かんし）にらんで和歌（わが）が盛ん（さか）になり、漢字をもとにひらがながつくられたり、十二単（じふにひとえ）や寝殿造（しんでんづくり）のような衣服（いふく）や住居（じゆきよ）が生まれたりするなど、日本風の文化（ぶんか）（国風文化）が花開きました。

そうした中で道風（みちかぜ）は、それまでの中国風の書ではない和様（わやう）（日本風）の書をつくりあげました。道風の書は、新しい書として高く評価（ひやうか）され、その後の日本書道に大きなえいきょうをあたえ続けました。

源氏物語絵巻（げんじものがたり）は、紫式部（むらさきしきぶ）が書いた源氏物語（げんじものがたり）に絵（え）を付け加えて巻物（まきもの）にしたものです。小野道風（おののちかぜ）の書（か）が登場（とうじやう）する場面（ばめん）があり、「道風の書（か）は現代的（げんだい）でとてもすばらしい」と書（か）かれています。



▲ 源氏物語絵巻（柏木三 絵）徳川美術館所蔵（国宝） ©徳川美術館イメージアーカイブ/DNPartcom

道風がつくった和様の書

和様の書は、力強い中国の書とはふん囲気がちがいます。日本人の気持ちに合った、優やさしくおだやかなところが特ちょうです。線をよく見ると、まるみがあることがわかります。上品で美しい道風の書は、ばく発的に流行し、その後、数百年もの間、人々に愛されました。

屏風土代

左の写真は、道風が書いた「屏風土代」です。「土代」は、下書きという意味で、天皇が使う屏風に漢詩を書くために道風が下書きをしたものです。

おだやかな感じの書にするためにいろいろな工夫をしたんだ。
王羲之おうぎし（4世紀に生きた中国の人）の字と比べてみよう！



王羲之の「春」



道風の「春」



4行目4文字目

道風の「春」のはらいは、なんだかふんわりしているね。

ゆっくりと書いたんだ。みんなはどう思う？ 大らかな感じがしない？



かく たて
横画から縦画に移る部分がちがうね。

王羲之の「思」



道風の「思」



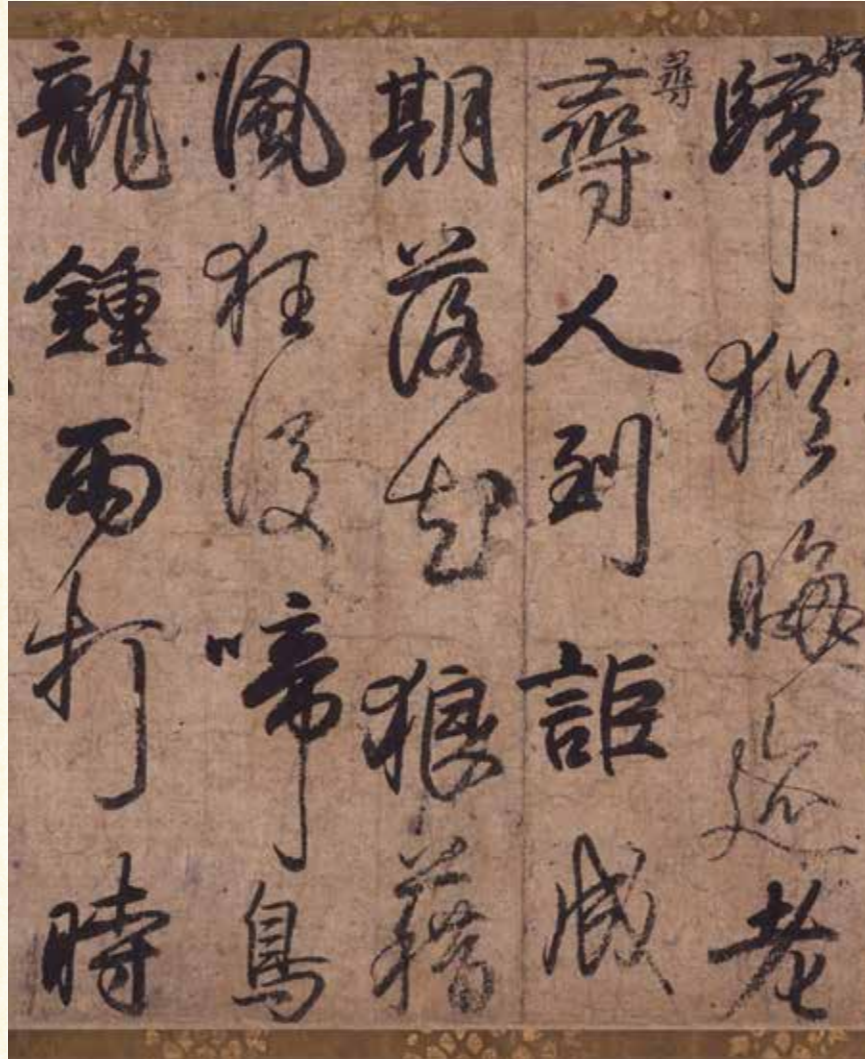
3行目2文字目

筆を止めないで線を曲げたんだ。
どう？ とがったところが
ないでしょう。



現存する道風の書

今も残っている道風の書は、「屏風土代」
「玉泉帖」「智証大師諡号勅書」「三体白氏
詩卷」「常楽里閑居詩」の五点のみで、たい
へん貴重です。道風記念館(P8参照)では、
五点すべての複製品をみることができます。



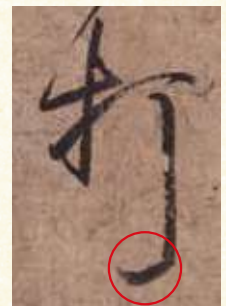
▲ 小野道風筆屏風土代(部分)[宮内庁三の丸尚蔵館蔵]



王羲之の「別」



道風の「打」



9行目4文字目



むむ。
はね方が全然ちがうね。

どうちがうのか考えてみてね。



道風の誕生伝説

道風が春日井で生まれたということが古い資料に見られますが、それが真実かどうか、はつきりしたことはわかっていません。

春日井市内には、約二百年前、江戸時代に建てられた石ひがあり、「春日井の人々が、道風はここで生まれたと言っている。しかし、証拠がない。何年先でもいいのでだれかそれを明らかにしてほしい。」という内容が彫られています。江戸時代以前から春日井に道風の誕生伝説があったということがわかります。

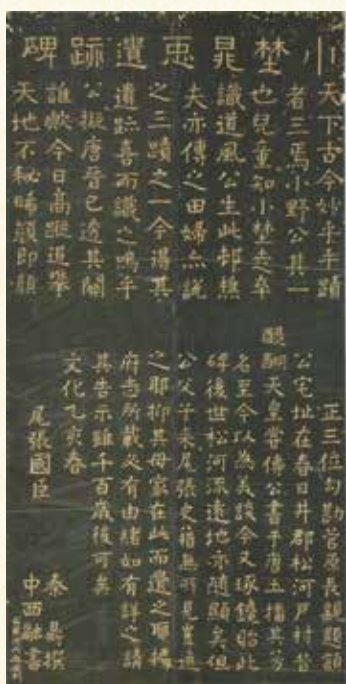
石ひは松河戸町の道風公園にあるんだね。



見に行こうよ。



小野朝臣遺跡碑



小野朝臣遺跡碑の拓本

柳にとびつく蛙

和様の書をつくりだすために、道風はたいへん苦労したにちがいありません。道風を主人公とした次のような話があります。

ある日、道風は柳にとびつこうとしていた蛙をみつけました。柳の枝はとても高く、とびつけないだろうと道風は思いました。でも蛙はあきらめません。何度も何度もジャンプしてとうとうとびついたのです。この蛙をみて努力の大切さを知った道風は、心を新たにがんばり、すばらしい字が書けるようになったのです。

この話は、努力家の道風をたたえて江戸時代の人がつくったものですが、国語の教科書にのっていた有名な話です。

だから、ぼくとカエルくんは仲良しなんだよ！



「書のまち春日井」 の取り組み

春日井の人たちは、ここが道風のふるさとだと信じて大切に思い、「とうふうさん」と呼び親しんでいました。そして、「道風のように字が上手になりたい。」と思う人が多くなり、書道の盛んな地域になりました。

春日井市ではこの伝統を大切に、「書のまち春日井」をキャッチフレーズに、様々な取り組みが行われています。

たとえ誕生伝説が真実だとしても、道風が生まれたというだけでは、「書のまち」とは言えません。「道風の功績を後世に伝えたい。」という気持ちから、「書のまち春日井」が生まれたのです。

春日井まつり



道風平安朝行列

小野道風や小野小町など平安時代を思わせる行列がパレードに参加します。参加者は毎年募集しています。



Kasugai ザ 道風

大きな紙に音楽に合わせてパフォーマンスをしながら作品を作る書道パフォーマンス大会です。

道風くん



「書のまち春日井」をPRするため、いろいろなイベントに登場します。

小学校の書道科



小学一年生から筆を持ち、書を習うのは、全国でもめずらしい春日井市独自の取り組みです。

■ みんなの書作品が展示されるよ！

教育展

クラスの代表の作品が春日井まつりの会場に展示されます。



県下児童・

生徒席上揮毫大会

小野小学校に学校の代表が集まって競い合う書道大会です。



力作を待っています！



道風展

全国から作品が集まる書道展です。小中学生も半紙と条幅の部に出品できます。



もっと調べてみたい人は、ぜひ行ってみよう！

春日井市

道風記念館



小野道風の誕生伝説地にある、全国的にも数少ない書の美術館です。いろいろな書を見ることが出来ます。夏休みには小学生向けの展示会があり、ワークショップ（体験教室）も行われます。



住所 春日井市松河戸町5丁目9番地3
TEL 0568-82-6110
<https://www.city.kasugai.lg.jp/shisetsu/bunka/tofu/index.html>

春日井市図書館



書に関する本やDVDなどがたくさんそろっています。特に小野道風に関する資料を集めた「道風コーナー」もあります。



住所 春日井市鳥居松町5丁目44番地 文化フォーラム春日井3・4F
TEL 0568-85-6800
<https://www.kasugai-lib.jp/TOSHOW/asp/index.aspx>